

ごでら
牛寺遺跡(本発掘調査A)

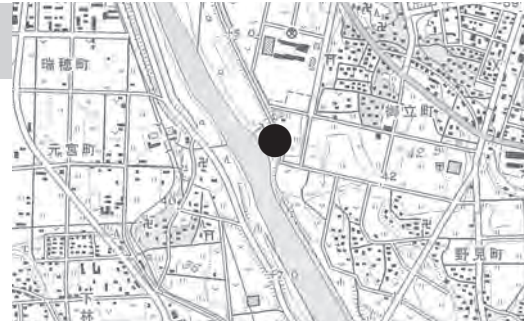
所在地 豊田市御立町地内
(北緯35度4分24秒 東経137度10分11秒)

調査理由 矢作川河川改修

調査期間 平成29年5月～平成29年6月

調査面積 200㎡

担当者 酒井俊彦・樋上昇



調査地点 (1/2.5万「豊田南部」)

調査の経過 発掘調査は、矢作川河川改修工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局豊橋河川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

牛寺遺跡は矢作川左岸の自然堤防上に立地する。1973(昭和43)年度の豊田市教育委員会の調査で古瓦が大量に出土したことから「牛寺廃寺」として認識されたが、寺院としての確実な遺構は確認されていない。その後、1991(平成3)年度に豊田市教育委員会、2005(平成17)年度に愛知県埋蔵文化財センターによって発掘調査がおこなわれ、縄文時代中期後半から中世にかけての複合遺跡として知られている。

調査の概要 このたび、堤防内の矢作川河川敷の地盤掘り下げにともない、遺跡の範囲を確定する必要が生じ、本発掘調査Aを実施することとなった。

結果、かつての矢作川の自然堤防が残る標高37m以上の地点では竪穴建物・土坑・溝などの遺構、平瓦・須恵器・山茶碗などの遺物の出土を確認したが、それより標高の低い箇所においては、明確な遺構や遺物を確認することができなかった。(樋上 昇)



T.T.13全景(南から)



T.T.14全景(南から)



T.T.18全景(西から)



T.T.20全景(南から)

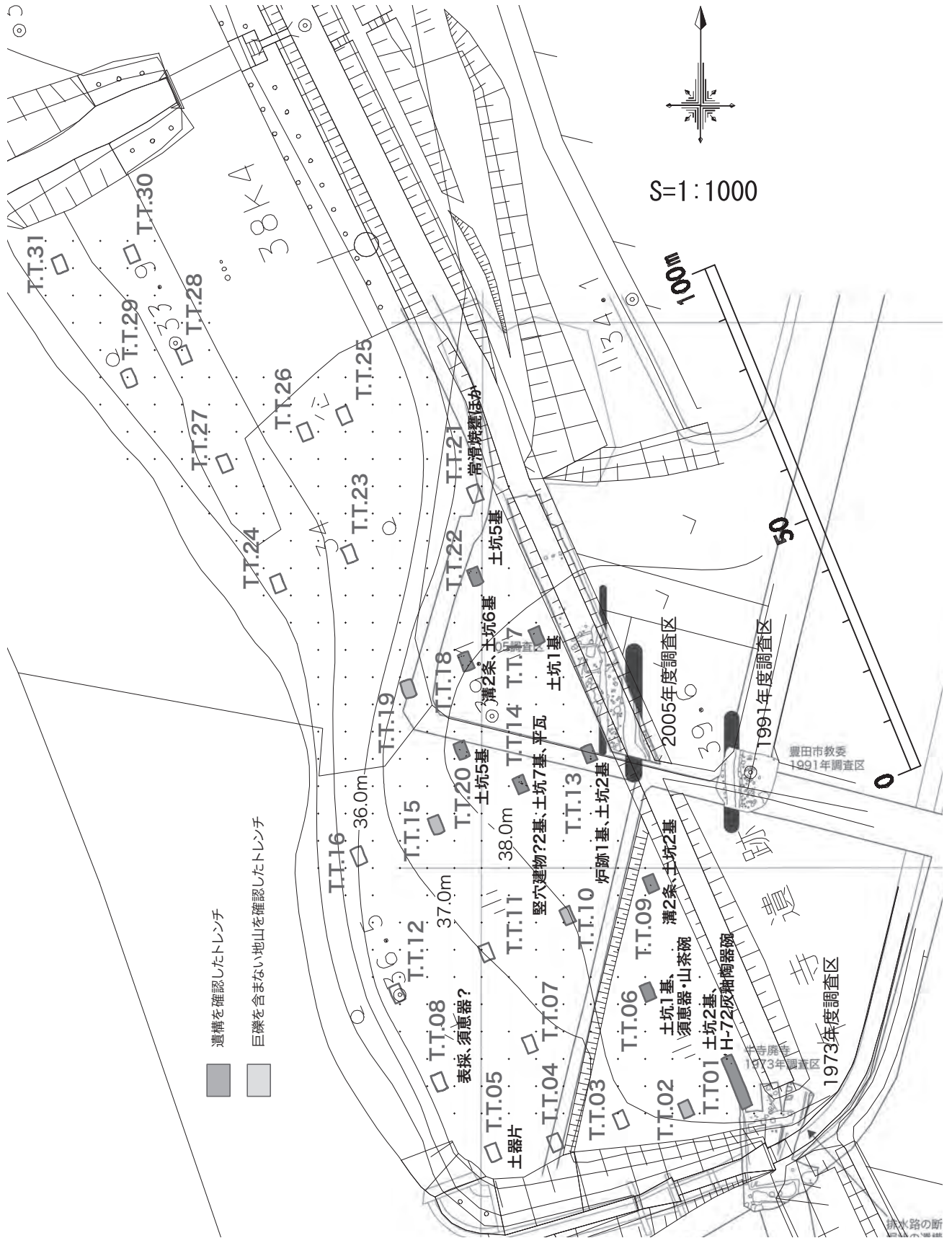


図1 トレンチ配置図 (1:1,000)